

● 電子ドラムについて（簡易版） ●

※これを読むともしかしたら買うのを躊躇してしまうかもしれませんが、
また、長すぎて意味不明な状況に陥ってしまうかもしれませんが、
一応購入前の必要な知識だとは思いますが、興味のあるところからで
結構ですので、どうぞお読みになってみてください。

目次	
(01) デメリットや落とし穴的なこと・注意事項.....	2
(02) メリット.....	3
(03) 購入店とおすすめメーカーについて	3
(04) 価格のチェックなどについて	4
(05) 買う時のその他の注意事項.....	4
(06) ヤマハとローランドの違いについて	4
(07) 中古を買う場合、譲り受ける場合の注意	4
(08) 「目標の習熟度」と「電子ドラムのランク」についての事例（詳しくは各種楽器店の店員さんまで）	5

● 電子ドラムについて ●

※電子ドラムは基本的に、触れるだけでいい音が出てしまうので、生ドラムとは意外と「似て非なるもの」です。正直、生ドラムで練習するよりは劣ります。練習方法を誤るとかえって下手になってしまう場合もありますので、安易かつ過度な期待は禁物です。でも、一般的には、スネアの練習パッド1つだけで練習するよりも、(明らかに)10~30倍以上は速く上達しますので、期待もしてください。(^^)

(01)デメリットや落とし穴的なこと・注意事項

- (a)ある1つの音量での音の強弱のニュアンスの違いは3段階くらいしか出せなく、微細なものが出せません。ですので、「大体の雰囲気まで」、ということになってしまいます。
(激しいロックのような曲を練習する場合はあまり関係ありません。大丈夫です。)
- (b)ハイハットの開け閉めなども、微妙な音は出せないのと同じことになってしまいます。
(スッチー、スッチー、の音です。)
また、電子ドラムの場合、ハイハットの開け閉めはかなり正確さを要求されます。例えば「生ドラムならちゃんとした音が出るタイミング」で左足を動かしても、電子ドラムだとちゃんと出ない…ということもあります。(かなり上達するとなんとかコントロールできるようになります。) また、音自体も単調です。なので、バラードなどで微細なハイハットの音を練習したいときは、「手順だけ」など、「やれるとこまで」にしておいて、あとは生ドラムで練習できる機会があればそちらで補う形が良いかもしれません。
- (c)生ドラムよりは騒音にならないものの、でも、「パカパカ・パキパキ」と意外にも音がうるさいです。
特にバスドラムを踏むときのバコバコガキン音が大きいです。ですので、ご家族の邪魔にならないようにしなければなりません。特に夜はマンションやアパートなどだと、電子ドラムでも苦情が来ることもゼロではないので小さな音での練習にしたほうがいいです。どのくらい下の階に響くか、詳しくはショップ店員さんや質問サイトで。
- (d)電子ドラムを置くスペースが、思った以上に必要です。
電子ドラム用の部屋が一個、必要だと思ったほうがいいです。(スティック落したり飛ばしたりしたときやセッティング時に、電子ドラムの周囲を歩けるくらいのスペースが必要なためです。中レベルのセットでも最低4畳半分くらいは必要です。机やパソコンスペースなどが要るなら6畳は必要です。ドラムを置くスペース自体はイスを置く場所も含めて2m×2mくらいが必要です。イスを置くスペースをけちると腕が何かに当たって振れなくなる可能性があるので注意!です。)どうしてもお部屋が狭くってしまうようでしたら、最小スペースのセッティングは、角へ向けて、また、外側へ向けて置けるようでしたらそのほうが良いかと思えます(椅子がお部屋の中心側になります)。
- (e)バスドラムは自分専用のペダルを使わないとあまり練習にならないので必須です。
無名メーカーで3,000円くらい、有名メーカー品で7,000円くらいから売っています。
なお、フットペダルを装着できない電子ドラムは中古でも新品でも絶対に買わないでください。
- (f)通常、ハイハットスタンド、ドラムのいす、フットペダル、場合によってはシンバルスタンド、などは「別売り」となります。中級機以上だと別途にその分の費用がかかります。初級機はイスとペダルだけがかかります。
- (g)買うときには絶対に試奏が必要です。電子ドラムごとに叩いたときの感触がまったく違うためです。
音源ユニットの音の種類の種類も必要です。
- (h)ハイハットスタンドを必要とする電子ドラムのほうが上達しやすいのですが、割と高価です。(15万以上)ですのでもしハイハットスタンドを含める予算がなく、例えば総額5万円以下といったような場合でしたら、電子ドラムじゃなくて、ハイハットスタンドを含めた(音の出ない)フルセットのトレーニングパッドのほうが良い場合もあるかもしれません。パキパキという音だけを聴いて練習するのも結構上達します。
(参考：<https://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/B0028S9E3Q/rockintiger0a-22/ref=nosim/>)
新品でも1万円台からと、電子ドラムよりはかなり安いのと、意外と「イメージトレーニング」にもつながって良い場合もあります。
ただ、実際に試奏してみて、ハイハット部品やその音に違和感がなければ、ハイハットスタンドの要らないモデルでOKです。新品で10~15万円くらい、中古で3万~5万くらいですが、それでもかなりな十分さです。
- (i)予算が少ないからといって、部品を少なくしての購入は避けたほうが無難です。
例えば、スネア、バスドラム、ハイハット、の3点セットだけだとなかなか上達しないです。(3点セットはかなり上手い人じゃないと上達しにくいです。)なので、たいていはタムとフロアタム、そして、シンバルが最低2枚つい

ていますのでそのようなセットがいいです。となると、やはり決して安価ではなくなります。

- (j) クローズドリズムショット（カッ、カッ）の音が出ないモデルがあります。特に中古です。ですので必ず試奏が必要です。※もちろん、（カッ、カッ）の音が出なくても練習はできますが。
- (k) 各太鼓部分（パッド）の直径が小さいため、セッティングがどうしても生ドラムに比べてコンパクトになりすぎてしまいます。
逆に言うと、生ドラムに戻ったときに、各太鼓と太鼓の距離が広がり（すごく広く感じ）、移動距離が長くなります。そのため、「電子ドラムのときは叩けた手順が、生ドラムだと“いろいろ遠くて”うまくいかない！」ということも出てきます。慣れの問題も多いですが、各太鼓の距離や高さ、角度的に無理な場合もあります。
- (l) 同じようなことなのですが、電子ドラムは、タムタムやフロアタム部分のパッドの位置決め、角度決め、において、自由が利かないケースが少なくないです。生のドラムのように自由な位置・角度を設定できないことが割とあります。ですので、その意味からも「電子ドラムのときは叩けた手順が、生ドラムだと“うまくいかない”ということが出てきます。その際は焦らずじっくりゆっくり練習していくしか道はないので「電子ドラムは完全じゃない。時にはあきらめずにコツコツやることも必要」、ということもあらかじめ承知しておいてください。

(02) メリット

- (m) 手足のコンビネーションを覚えやすいです。体幹を使う、椅子の上で踊る、8分のウラを取りながら踊る、等々、感情表現の練習もできます。曲の構成を体と耳で覚えやすいです。特に、一番重要な「足の練習」をしやすいです。
- (n) パソコンで録音してチェックできます。パソコンの無料ソフトで練習曲と重ねて録音することもできます。
- (o) iPod などをつないで、練習曲をヘッドホンの中に流しながら練習できるのでご助かります。
- (p) スネアだけの練習パッドよりはあきらかに、手足のコンビネーションの練習をしやすいです。上達も早いです。（ただし、音の出ないトレーニングパッドだけの練習用ドラムセットでも多少の代用はできます。）
- (q) 6,000 円くらいのミキサーがあればギターやベースとも一緒に練習ができ、「簡易消音ヘッドフォンスタジオ」となります。
- (r) 逆に電子ドラムであっても、あえて「小さい音、軽い小さい体のうごき+ヒールダウン奏法」で、速い音符が叩けるようになると、それも上達が早まります。
- (s) ローランド社の製品のようなメッシュパッドだと強く叩いても手首を痛めないのが良いです。おすすめです。
- (t) ヘッドフォンを使わずに、パキパキ、ドコドコという直接音（電子ドラムの生音）を聴いて練習してもかなりの練習になります。そのほうがうまくいくことも少なくないようです。

(03) 購入店とおすすめメーカーについて

イオン大高の島村楽器、パルコの島村楽器、石橋楽器・名古屋栄店、などが実機の展示品が豊富です。

ですが、基本、どこでも大丈夫です。

必ず試奏します。ネットで買ってもいいはいいです。ただ、普通の店舗のほうが故障時などに安心な面が大きいです。
なお、ネットの場合は潰れなさそうな楽器屋さんのほうが故障や初期不良など何かあったときに若干安心です。
例えばサウンドハウス、石橋や島村のネットショップです。楽天などで買う時もそれらなら安心かと思えます。
そこ以外のネットショップで買う場合は必ず電話で「保証期間内（1 年以内）に壊れた場合の手続きや流れ、修理期間」などについて聞いておきます。「“なんでも聞いてください”的な丁寧な説明」をキチンとしてくれないところはあまりよくないかもですね。またネットショップは実際に潰れる可能性も低くないので本当にそこだけ注意です。

おすすめのメーカーは「ローランド社」です。「V-Drums」というブランド名の製品です。この「V-Drums」はメッシュパッドを使ったモデルが多いのですが、メッシュは手を痛めません。ちなみにローランドのメッシュパッドはチューニングキーで張り具合を変えられるので本物と同じような打面の反動（跳ね返り）を得ることができます。おまけにキックパッドもその他のパッドも、かなりのハードヒットを続けても大丈夫です。かなり丈夫にできてます。
なお、おまけでフットペダルが付く際も必ず試奏します。必ず大きく踏み込みます。作りが悪いとペダルだけでもその時に騒音がカチカチと出ますので。ダメだったら買い替えます。中古も新品もで3000円くらいから。

(04)価格のチェックなどについて

「サウンドハウス」というネットショップが割と安いので、ここで全体的な「なんとなく」の価格や種類をチェックします。パソコンで Google で「サウンドハウス」で検索するとすぐに出てきます。

「ドラム・パーカッション」のメニューから「電子ドラム」に行けるので、そこでどんなメーカーでどんなモデルがあるかをおおむね一覧できると思います。(おススメの ローランド社の中級機種が無かったので後でご紹介します。)

メーカーやモデルが分かったら、各メーカーのサイトで調べたり、機種名で Google 検索するとアマゾンや楽天の販売ページなども出てくるとお思いますので、そこでさらに実際の価格などを確認します。

(05)買う時のその他の注意事項

電子ドラムは必ずしもお安くはないので、お知り合いで初級用の中古をお持ちの方がいらっしゃったら2~3 万くらいで安く譲っていただくのも手です。もちろん無料なら本当にありがたいです。目的に合うモデルが ハードオフなどで2、3万で売ってしましたら、まずはそれを買ってみてどんな感じかをつかんでから、本格的なモデルに買い替えを検討してみる、という方法もあるかとお思います。(運よく長く使えそうでしたらラッキーですし…)

ただし、フットペダルを装着できないモデルは中古でも新品でも絶対に買わないで(ゆずり受けしないで)ください。

それから、力を入れて大きく踏んだり叩いたりしたときのパキパキ音やバコバコ音がどのくらいかも事前に、実際に楽器店でチェックしてください。お店の BGM がうるさくてチェックしづらいかもかもしれませんが、その場合は、3、4倍の音量を想像してみてください。マンションやアパートで使いたい方はこのチェックは必須です。

そのほか、マンションやアパートなどの場合、下に敷くマットはあったほうが良いかとお思います。

フローリングなどでバスドラムやハイハットの踏み用のユニットが前へずれてしまう場合は、布のガムテープなどでかかと部分から固定するか、やはり専用マットを購入して前へずべらないようにします。(たいていはバスドラムのユニットにはマジックテープが底の部分についていて、前へズレない・ズレにくいようになっていますので。)

床に傷がつくことがダメでしたら、専用のマットは必須になるかとお思います。V-Drums のマットは2×2mです。詳しくは各楽器店や中古ショップの店員さんともご相談ください。

(06)ヤマハとローランドの違いについて

ヤマハは使ったことがないので何ともいえませんが、少し激しく叩いてみて、ローランドのメッシュパッドよりも衝撃が少なかったら良いとお思います。もしかしたらヤマハのほうが音源ユニットの設計が高度で自然な音色やバランス、反応の良さ、かもしれないですし……。

ただ、そこまでこだわるのは、プロの方や電子ドラムをステージで使う方々だけですので、私たち素人が選ぶ際は、「練習でエキサイトしてしまった時などに怪我をしないこと」が最重要かとお思います。

パッドが固すぎるとどうしても反動の衝撃で手や手首を痛めるので、その状態で長いこと無理して繰り返し練習すると取り返しのつかないことになる恐れがあります。今現状は、それが少ないであろうローランド製のメッシュパッドがおすすすめです。特にハードに大きな音で叩きたい人はそうです。

ちっちゃな音でも大丈夫な人は、メッシュパッドでなくても、また、どのメーカーのものでもよいとお思います。ただし、スネア部分が少しでも「あれ？固いかな？」という感触があったら、ナメたらいいけません。ローランドならスネアだけでもメッシュか、ヤマハならスネアだけでも柔らか目パッドの機種にしておいたほうが無難です。完全なゴムだけのパッドでしかもそれが「固い」場合、練習がいい感じに集中できてしまって「入ってしまった」場合、それを途中でやめるのはちょっと至難です。でも、その集中と、ある意味負の継続が、少しずつ少しずつ、手や手首、体を痛める結果となってしまうことがあります。ご注意ください。

初めてで分からなかったら、購入時に電子ドラムに慣れている人に付き添ってもらうのも良いとお思います。

(07)中古を買う場合、譲り受ける場合の注意

必ず試奏して、音が鳴らないパッドが無いかだけでも確認します。できれば音の種類も確認します。

ネットショップで買う場合は、必ず担当の方にお聞きして、保証期間もお聞きます。

また、事前に機種名で説明書がインターネットからダウンロードできるかも確認しておきます。

組み立てや音の設定のために必要になってきます。

また、特にゆずりうける際は、運搬はバラシて運ぶと結構部品を無くしたりして面倒なので、高さのある車を借りるなどして、立てたまま（シンバル部分はたたむか低くして）運ぶのが一番よいです。（倒れないように紐などで支えあわせて）

運搬前に部品の確認、接続コードのつなぎ方もチェックします（スマホでその部分の写真をいくつか撮ったりして。）特に、取り外した部品がある場合、その確認と確保（別の袋にしっかり包むなど）を確実に行います。

接続コードを外したい場合は、どことどこでつながっていたかが後で分かるように、シールメモなどを貼ってから外します。

ネジをゆるめたときにガムテープで（落ちないように）固定することが必要です。特にシンバル用のスタンドのパイプが抜けたところは、パイプ締め付け用のネジが運搬中にどんどんゆるんで、車内に落ち、見つけ出すのが困難になることもあります。そういったことだけ注意します。

(08)「目標の習熟度」と「電子ドラムのランク」についての事例（詳しくは各種楽器店の店員さんまで）

- (a)文化祭に出たい、ブラバンの部活の大会に出たい、半年か1年に一度、なんらかのイベントに出たい、などの方。
ハイハットスタンド利用モデルはどうしても高額になってしまうので、ここではローランド社のハイハットスタンド不要モデルをご紹介しますと思います。

初級機

<https://www.digimart.net/cat5/shop5013/DS03370041/>（中古：TD-4KS-S 約6万）

こちらだけ中古でのご紹介です。同じものを使っている生徒さんによると、セット全体の黒いパイプスタンドが少しぐらつくようです（なんとかダイジョブとは言っていました）。ですが、価格を考えたらずますずかだと思います。メッシュなのはスネアの部分だけですが、それだけでもロールの練習もしやすく相当ありがたいと思います。ドラムを初めて1、2年以内ならこのくらいのもでも十分です。これがシンバルが1枚減った状態で、5万円以下で中古で出てましたらかなり買いかと思えます。（音のチェックは必ずして。）ハードオフなどでも稀に3万円前後で出ています。なお、これ以下のランクのものは、ちょっと上達するともの足りなくなって触らなくなってしまうので、あまり質は落とし過ぎないほうがいいとは思っています。

中級機 O1（こちらメッシュはスネア部分のみ）

<http://store.shimamura.co.jp/shop/g/gmt0016306/>

（TD-11K-S ハイハットスタンド不要モデルの全部入り／約12万円）

椅子とフットペダルはついていません。専用防振マット、ヘッドホンは無しで別売りです。

<http://store.shimamura.co.jp/shop/g/gmt0055103/>

（TD-11KS ハイハットスタンド不要モデルの全部入り／約14万円）

専用防振マット、ヘッドホン、椅子、フットペダル全部ついていません。

中級機 O2（オールメッシュです。）

<http://store.shimamura.co.jp/shop/g/gmt0016307/>（ローランド：TD-11KVS）

（TD-11KV-S ハイハットスタンド不要モデル、イス・ペダル・ヘッドフォン・マットなし／約17万円）

- (b)プロをめざしたい、セミプロになりたい、ライブハウスで月一ライブがやりたい、などの方。
18~20万円以上の、ハイハットスタンドも装着可能なモデルがおススメです。パワーヒットすることも多いかと思えますので、怪我しないようにローランド社のメッシュの機種がおススメです。

中級機（オールメッシュ。）

<http://store.shimamura.co.jp/shop/g/gmt0040135/>（ローランド：TD-25SCS）

（シンバル3枚、ただし、ハイハットスタンド、ペダル、椅子、等は無し／約23万円）

上級機（オールメッシュ。）

<http://store.shimamura.co.jp/shop/g/gmt0015806/>（ローランド：TD-30KVS）

（シンバル3枚、ただし、ハイハットスタンド、ペダル、椅子、等は無し／約50万円）